

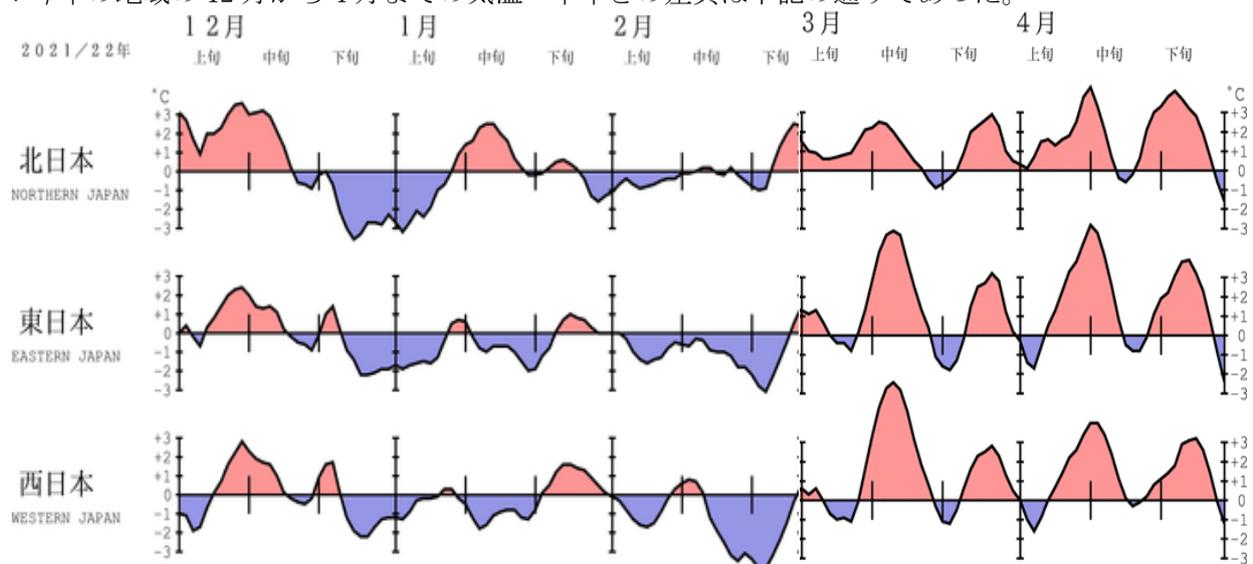
今年はラニーニャの影響とは言え、予報通りの寒冷な冬季であったが、その後は寒暖の差の大きな不順な天候続きの春となって来ている。天候ばかりでなく、東北や関東の話とばかり思っていた地震の報も近頃では九州や能登半島、さらに近頃では当地でも和歌山県北部や京都南部を震源とするゆれを感じるなど不穏な状況も続いている。一方では、一向に終焉の見えないコロナの呪縛も2年以上も続いて来てくれば緩みがち？このゴールデンウィークなど国内移動・観光地などについては以前の状況に戻ったようにも伝えられる。連休後の感染状況などが今後の試金石となるであろう。とは言え用心に越したことはなくこの期は当方は沈殿を決めこんでいる。

さて、続けて来た今年の「サクラ前線（ソメイヨシノ）」の追っかけも3月17日に福岡から始まり、本州では4月16日、丁度1ヶ月かけ青森に到着、その後北海道に上陸、函館、札幌を経て、4月25日に室蘭に到着、4月30日に満開となり終了となった。

本報では、今年の「サクラ前線」に関係する気象（気温）の経緯、各地域の開花・満開の期日と開花に関しての平年及び昨年との比較をまとめておきます。

1. 今年の地域の冬期～サクラ開花期の気温経過

\*今年の地域の12月から4月までの気温・平年との差異は下記の通りであった。



奄美・沖縄地域を除く、上記の3地域では絶対値の差はあるものの、平年値との差異の傾向はほぼ同じで12月下旬から2月末にかけては予報通りラニーニャの影響を受けて平年を下回る気温の日が続いた。ところが、3月以降の気温は図のごとく、全体としての気温は高めに推移してきているが、暖かい期間は継続せず、平年を下回る期間も出現して、結果として異常とも思える高温期が波状に現れる気象となった。昨年も12月後半から1月中旬までは寒冷であったが1月下旬からは暖冬に転じそのまま暖かい日々が続いたため、各地で史上最速の開花日を記録したが、今年は各地共この記録を更新した地域は見られなかった。逆に日本海側などでは積雪の関係か昨年比では10日以上開花の遅れた地域もあった。なお、この冬季の低温の結果として、各地で「休眠打破」が順調に進み、一昨年のような「休眠打破」の遅れに伴う開花遅れといった現象はなく、サクラ前線は概ね南から北へと進行した。（次表を参照下さい。）

## 2. 全国・都道府県の本年度のソメイヨシノの開花日・満開日及び比較一覧。

サクラ前線とは逆であるが北から南へ本年度の各都道府県の標準木の開花日等をまとめた。

表1. 2022年度の全国のサクラ(ソメイヨシノ)の開花日と満開日、開花日の平年・昨年比。

都道府県	都市	新平年値		2022年		比較	
		開花日	満開日	開花日	満開日	開花～満開 今年(平年)	開花日比較 平年/昨年
北海道	札幌	5/1	5/6	4月23日	4月25日	3(6)	8/1
青森県	青森	4/22	4/26	4月16日	4月20日	5(5)	6/3
岩手県	盛岡	4/18	4/24	4月14日	4月18日	5(7)	4/5
宮城県	仙台	4/8	4/13	4月8日	4月14日	4(6)	0/11
秋田県	秋田	4/17	4/22	4月14日	4月16日	5(6)	5/8
山形県	山形	4/13	4/18	4月11日	4月13日	3(6)	2/9
福島県	福島	4/7	4/11	4月4日	4月8日	5(5)	3/10
茨城県	水戸	3/30	4/6	3月30日	4月6日	8(8)	0/13
栃木県	宇都宮	3/30	4/6	3月27日	4月2日	7(8)	3/7
群馬県	前橋	3/30	4/5	3月27日	4月1日	6(7)	2/6
埼玉県	熊谷	3/29	4/3	3月24日	3月30日	7(6)	3/5
千葉県	銚子	3/30	4/6	3月27日	4月6日	11(8)	3/5
東京都	都心	3/24	3/31	3月20日	3月27日	8(8)	4/6
神奈川県	横浜	3/25	4/1	3月21日	3月28日	9(8)	4/4
新潟県	新潟	4/8	4/13	4月8日	4月11日	4(6)	0/10
富山県	富山	4/3	4/8	4月1日	4月6日	6(6)	2/8
石川県	金沢	4/3	4/8	3月30日	4月5日	7(6)	4/7
福井県	福井	4/3	4/7	3月30日	4月6日	7(5)	1/9
山梨県	甲府	3/27	4/3	3月22日	3月28日	7(8)	4/3
長野県	長野	4/11	4/16	4月9日	4月11日	3(6)	2/11
岐阜県	岐阜	3/25	4/3	3月21日	3月28日	8(10)	4/5
静岡県	静岡	3/24	4/2	3月21日	3月30日	10(10)	3/1
愛知県	名古屋	3/24	4/2	3月22日	3月30日	9(10)	2/5
三重県	津	3/29	4/3	3月26日	3月30日	5(6)	3/6
滋賀県	彦根	4/1	4/8	3月31日	4月6日	7(8)	1/9
京都府	京都	3/26	4/4	3月24日	3月30日	7(9)	2/8
大阪府	大阪	3/27	4/4	3月23日	3月30日	8(9)	4/4
兵庫県	神戸	3/27	4/5	3月25日	4月1日	7(10)	2/1
奈良県	奈良	3/28	4/4	3月25日	3月31日	7(8)	3/4
和歌山県	和歌山	3/24	4/3	3月24日	3月29日	6(11)	0/6

鳥取県	鳥取	3/29	4/5	3月27日	4月 1日	6(8)	1/9
島根県	松江	3/29	4/4	3月26日	3月31日	6(7)	3/12
岡山県	岡山	3/26	4/4	3月26日	3月30日	5(8)	2/6
広島県	広島	3/26	4/3	3月21日	3月29日	9(10)	4/10
山口県	下関	3/26	4/4	3月24日	4月 1日	8(9)	1/9
徳島県	徳島	3/27	4/4	3月24日	3月30日	7(9)	3/0
香川県	高松	3/27	4/4	3月24日	3月30日	7(9)	3/9
愛媛県	松山	3/24	4/3	3月21日	3月28日	8(11)	3/6
高知県	高知	3/22	3/30	3月19日	3月27日	9(9)	3/4
福岡県	福岡	3/22	3/31	3月17日	3月27日	12(10)	5/5
佐賀県	佐賀	3/24	4/2	3月19日	3月28日	10(10)	5/2
長崎県	長崎	3/23	4/2	3月22日	3月29日	8(11)	1/8
熊本県	熊本	3/22	4/1	3月20日	3月28日	9(11)	2/6
大分県	大分	3/24	4/4	3月23日	4月 1日	10(12)	1/5
宮崎県	宮崎	3/23	4/ 1	3月18日	3月28日	11(10)	5/2
鹿児島県	鹿児島	3/26	4/ 5	3月20日	4月 1日	13(11)	6/3
沖縄県	那覇	1/16	1/30	1月 11日	1月 31日	21(15)	5/7

※ 開花日比較 赤は早かった日数、黒は遅かった日数

\* 沖縄は「ヒカンザクラ」の開花・満開日

上表では、各府県を日本全国北から北海道・東北・関東・甲信越北陸・東海・近畿・中国・四国・九州・(沖縄)に9(10)地域に区分して色分け表示している。表記されているように各府県の標準木について、新しく改定された開花・満開日と共に、今年の開花・満開日、開花日～満開日までの日数、開花日について平年と昨年との差異を算出、表示している。

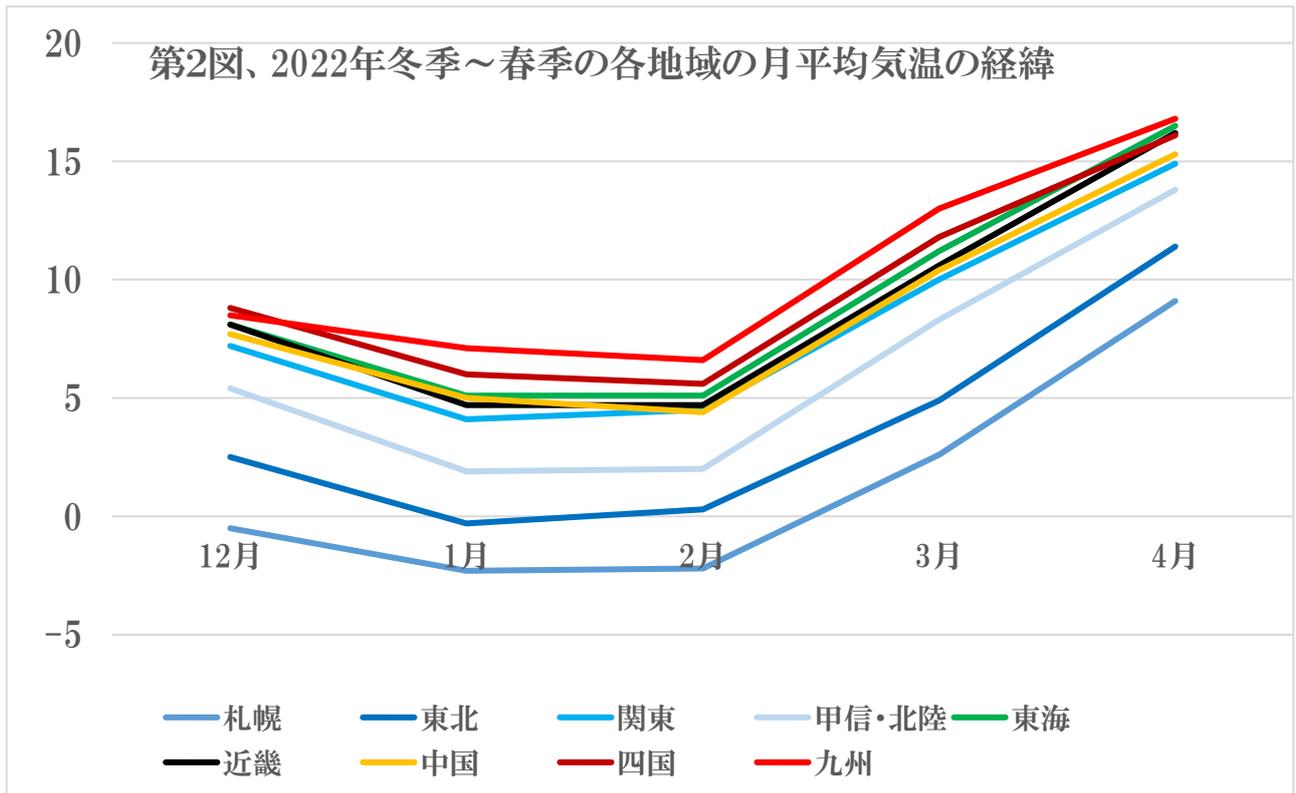
一般に植物の開花や展葉はその地の気温の経緯に左右される。サクラの開花などを平年との差異などを見るには上述の今年度の冬期～春期の平年値を基準とした気温の経緯図から傾向は推測も可能であるが、実際の開花や、満開日などを議論することは出来ない。

そこで、上記の沖縄地区を除く9区分について12月から4月までの月平均気温を算出、次ページのグラフに示した。勿論、上記の9区分では甲信越・北陸の長野県など問題はあるが取り敢えず上表の括りで表示する。

### 3. 今年度の冬季～春季の地域の月平均気温

次ページの第2図に上記9区分の今年度の12月から4月までの月平均気温を図示した。全体的には1, 2月が低温期3月から暖かくなるというパターンには変わりがないが、絶対値は前出の地域の平年値との差異から推測されるように、1, 2月は平年を下回った気温、3, 4月は平年より高めの気温となっている。参考の為、近畿地区の12月～4月の平年値を記載してきますのでご比較下さい。

・近畿地区の平年気温：12月 8.1℃、1月 5.3℃、2月 5.3℃、3月 9℃、4月 14.2℃



常識的に考えられるように、北海道、東北、甲信・北陸が全期間を通じて低温。九州・四国地区が高めに推移したことが分かる。ただ、府県の括りにも問題があるかもしれないが、後の4地域はほぼ同様1, 2℃の差の中に入ってしまうという結果になった。このような温度経過を基に、上掲の今年のサクラの開花日、満開日を見直して見たい。

#### 4. 今年の全国のサクラ（ソメイヨシノ）の開花・満開の総括

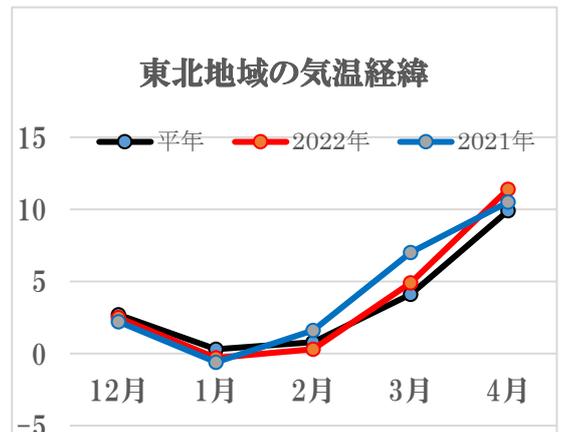
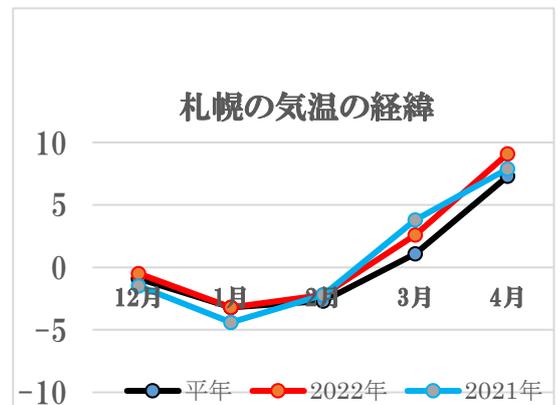
取り敢えず桜前線とは逆であるが、第2ページの表1に従い北の地域から今年のサクラの開花や満開の状況を見て行きたい。

##### ・北海道地区

表には代表として札幌を挙げておいたが、道内ではソメイヨシノを観測の標準木としているのは他に函館と室蘭がある。函館は4月21日の開花・平年より7日早く、昨年より2日早い。室蘭は4月25日の開花で平年より9日早く、昨年比でも2日早いと発表されている。3、4月の気温高が影響したものと考えられる。開花から満開までの期間も3~6日と短い。

##### ・東北地区

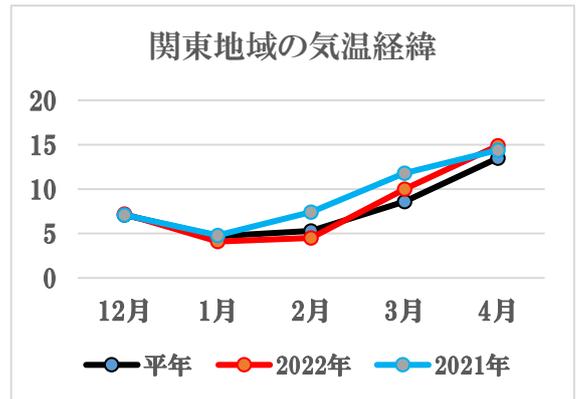
太平洋側に面した仙台を除いて例年通り南から北への開花。各地とも平年よりは早い開花となったが、昨年比では1週間から10日遅れた地域が多い。3月以降は平年を上回る気温になったが、昨年ほどではなかった影響であろう。なお、この地域でも開花から満開までの期間は平年よりも短く3日~5日



であり冬季の冷え込みが花芽の「休眠打破」期間が短期であったと推測される。

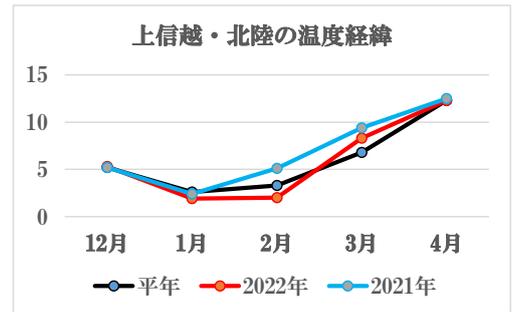
・ 関東地区

茨木・水戸を除いて各地とも平年より 3 日前後早い開花となったが、昨年比では4~7日おそくなった。開花から満開までの期間も 8 日前後ではほぼ例年通り。東京や横浜は今年も全国的に見ても特異的に早い開花日となっている。ヒートアイランド現象の影響か？



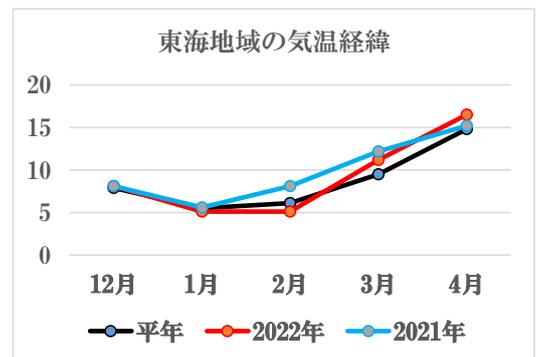
・ 上信越・北陸地域

甲府を除いて雪国・寒冷な地のイメージのある地域。この地域でも開花は平年を 2, 3 日上回ったものの昨年比では7~11日と大幅に遅れた。むしろ、降雪の少なかった昨年度が異常であったと考えられる。開花から満開までの期間は長野が 3 日と特異的に短い、他は 6, 7 日ではほぼ平年並み。



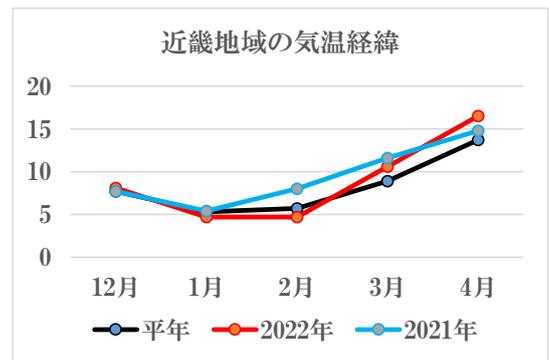
・ 東海地域

この地域も開花は 3 日前後早く、昨年度よりは遅いという傾向は同じである。また、開花から満開までの期間も平年並みであった。ただ、この地域では三重県・津が名古屋より南に位置し、冬季の気温も今年は 1℃ほど高めに推移しているながら開花が遅く、満開までの期間が短いという発表になっている。平年値自体も開花が遅く、開花から満開までの日数が短い・・・。観察されている「標準木」の特性？



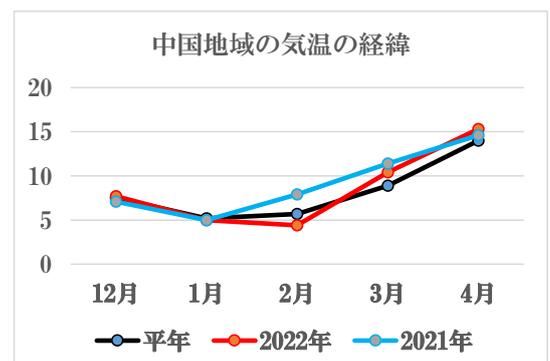
・ 近畿地域

近畿 6 府県の開花・満開の解析については「サクラだより 7」で詳述しているのでお読み下さい。なお他地域と同様に開花は平年より早かったが、昨年度よりは遅れた。特に、昨年最速を記録した京都、彦根で大幅に遅れたと言える。なお、開花から満開までの期間は各地とも 1~2 日短くなった。開花の期日は第 2 図の気温経緯図通り、団子状の 4 地域とほぼ同時期となった。



・ 中国地域

この地域についても、今年の開花は各地とも平年よりは多少早かったが、昨年に比べると岡山を除き 10 日前後も遅れた。昨年、全国の開花 1 番となった広島は 3 月 21 日と昨年より 10 日遅い開花となった。それでもこの地域では開花が一番はやかった。なお、開花から満開までの期間は各地とも短くなった。

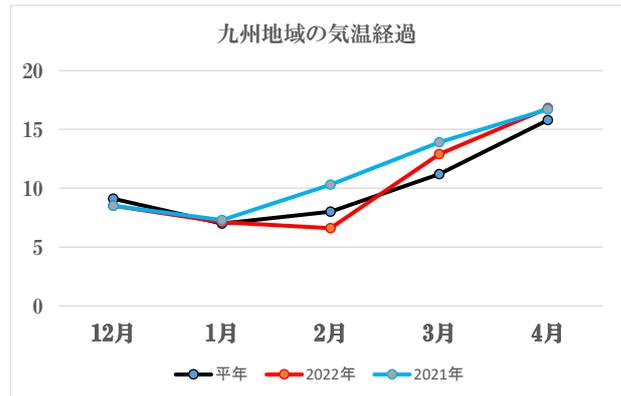
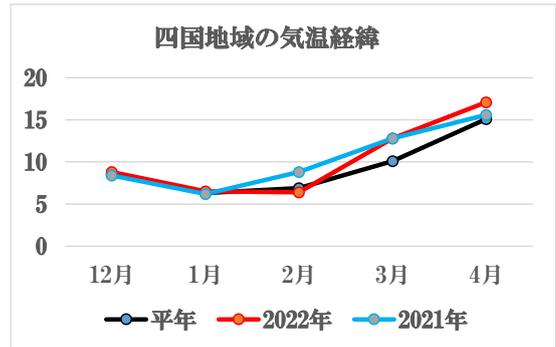


#### ・四国地域

開花は各地共、平年値より3日早いという結果であった。気温の上では九州に次いで高くはなっており開花は高知（全国3位）がトップで全体的にも九州地区に次いで2位の位置にある。また、開花から満開までは7日から8日と例年に比べると短くなっている。

#### ・九州地域

地域の気温は第2図のように期間を通じて高めに推移した。ただし、図には現れないが、右のグラフの通り1、2月の気温は平年値を下回ったものであった。この結果、本年に限っては全国で最も開花の早かった地域となった。各地共、昨年には及ばないが平年値を5、6日上回開花日となった。一方、他地域に比べると開花から満開の期間は10日を超える地域もあり、矢張り冬季の気温が高めであった影響で「休眠打破」の期間が長引いた結果と推測された。



\*以上、今年是全国的に第1図に示した通り、12月下旬から2月まで平年以下の気温が続き、3月、4月は異常と思われるような波状の暖かい（夏日？）日々が出現、平均的には気温の高い春となった。この結果、花芽の「休眠打破」が順調に進み、各地共平年よりは早い開花日となり、また、開花から満開までの期間も短くなったと考えられる。

#### \*最後に・・・。

最初はコロナフレイル対策の一環として頭のボケ防止を目的として書き始めた「サクラだより」もいつの間にか3年目を迎えました。この間、色々な方からのご意見や情報の提供を頂き何とか今日まで続けて来ることが出来ました。コロナの方はとても終焉とは言えないものの世の中は呪縛から解けたかのように以前の生活に戻りつつあります。自身の生活もしかり、時期を見てこの3年間に得られた知見などは別の形で纏めたいとは思っていますが、これを機に本報を持って一応本シリーズに終止付を打たせていただきます。

3年間のお付き合い本当に有難うございました。

完